

みんなの健康ラジオ

『下肢静脈瘤(病気について)』

(2022年12月8日放送)

横浜外科医会

(医)聖仁会横浜甞生病院

澤田 傑

静脈瘤の症状 1

下肢静脈瘤のおもな症状は以下のようなものです。

- ☑ 足のむくみ、はれ、痛み、だるさ、疲れやすさ
- ☑ 足のかゆみ、熱くなる
- ☑ 夜、足がつる（こむら返り）
- ☑ 皮膚炎（湿疹、茶色い色がつく、皮膚が固くなる）
- ☑ 潰瘍（かいよう）

下肢静脈瘤の症状 2

その症状は下肢静脈瘤の症状？

- 立っているときに起こる
- 午後から夕方に起こる
- 左右の足で症状の強さが違う
- 足の冷えやしびれ、強い痛みではない

*3つ以上に当てはまる場合、下肢静脈瘤の症状の可能性ががあります。

下肢静脈瘤の原因

下 肢静脈瘤は“弁”が壊れて起こる!

足の血管には動脈と静脈があります。動脈は心臓から足にむかって血液を送る血管で、静脈は足で使い終わった汚れた血液を心臓に返す血管です。人間は立って生活しているので、足の静脈は重力に逆らって上向きに血液が流れています。血液が下向きに流れないように静脈の内側には“弁”がついていて、血液の逆流を防いでいます。

下肢静脈瘤は、この静脈の中の逆流を防止する弁が壊れることによって起こります。弁が壊れると血液が下向きに逆流し、足に血液がたまります。その結果、静脈はふくれてこぶのようになり下肢静脈瘤となります。一般に静脈がふくれて目立つのはふくらはぎですが、静脈の弁が壊れるのは足のつけ根なので、多くの場合、足のつけ根から太ももの静脈に原因があります。

▼静脈の弁が壊れるのが下肢静脈瘤



下肢静脈瘤の種類

下肢静脈瘤には4つのタイプ!

一口に下肢静脈瘤といっても色々なタイプがあり、タイプによって治療法やその後の経過が大きく違います。

下肢静脈瘤はその太さによって4つのタイプに分類されます。0.1mm以下の“クモの巣状静脈瘤”、1-2mmの“網目状(あみめじょう)静脈瘤”、2-3mmの“側枝型(そくしがた)静脈瘤”と4mm以上の“伏在型(ふくざいがた)静脈瘤”です。最も太い伏在型静脈瘤は症状が起こり、治療には手術が必要となります。残りの3つの細いタイプは症状があることは少なく、基本的には見た目の問題となります。



クモの巣状

網目状

側枝型

伏在型

下肢静脈瘤に伴う皮膚潰瘍

